

7-4 生存権と社会保障 <発展編>

■Q：ベーシックインカムは、是か非か？

★ベーシックインカム（“基本収入”）とは 1970年代からヨーロッパで提唱されるようになった社会保障制度の構想。政府が全国民に対して、年齢・性別・職業・貧富の差・障害の有無などを問わず無条件に、最低限度の生活を送るために必要な金額の現金（月額およそ5～8万円）を一律に支給するという構想。

★賛成論 ベーシックインカムを実現することによる最大のメリットは、社会から生活困窮者がいなくなり、すべての国民の生存権（日本国憲法では25条）が保障されることである。

もちろん実現には数百兆円の資金が必要となるので、大幅な増税をしなければならないと思われる（財源については、消費税を大幅増税するという意見や、消費税ではなく所得税を増税すべきだとする意見などがある）。しかしベーシックインカムを実現すれば、代わりに低所得者に個別に支給している生活保護や児童手当などを廃止することが可能になり、その財源をベーシックインカムの財源の一部に繰り入れることができるし、また生活保護行政などに携わっている職員を削減してその人件費も減らせるので、財政的には十分可能と思われる。

またベーシックインカムは最低限度の生活を営むための資金として国民に支給するので、その金額で生活できる者は、働く必要がなくなる。現代はコンピューターをはじめとする多様な技術革新が行われているので、今後は社会の機能を維持するために必要な労働力は少なくなっていくだろう。このままでは、すべての人間に就職先を保障することができなくなるかもしれない。ベーシックインカムはそのような時代が来ても対応できる。

★反対論 ベーシックインカムで最低限度の生活が保障されるようになると、人間は墮落し遊んでばかりで働かなくなるのではないだろうか。また大幅な増税や公務員の削減に国民の合意は得られるのか。そもそもベーシックインカムで本当に全ての国民が幸福になれるのか。例えばベーシックインカムが実現される代わりにさまざまな福祉が切り捨てられることになりはしないか。最低限度以上の生活をしたくない者だけが働くようになったとき、労働者の権利は守られるのか。

■視点・論点

人間は生活資金を得るためだけに働くのか？

ベーシックインカムで、すべての国民が幸福になれるのか？

ベーシックインカムを実現するための財源はどうやって確保するのか？